

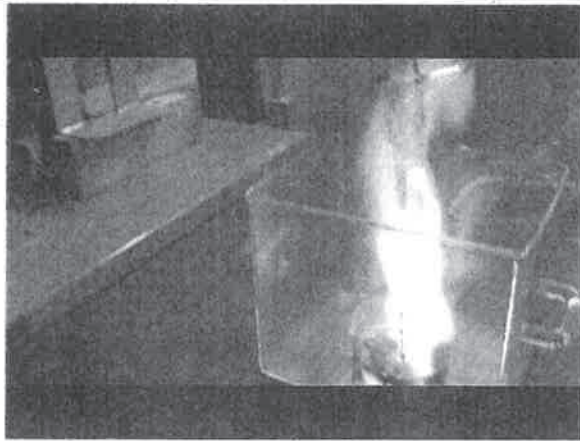
# JPカンファレンス

## 無害化ケイ素をガラスに

### アスベスト処理 燃烧装置開発へ

環境汚染物質を浄化する薬剤の開発・製造を手がける、JPカンファレンス(本社名古屋守山区下志段味・クリエイションコア名古屋103、羽根田晃社長、電話052・739・2526)は、アスベスト除去剤により無害化された「ケイ素の塊」を溶融してガラスにする、専用のガス燃烧装置の開発を進めている。ケイ素の塊は特別の最終処分が必要だが、ガラス化すれば産業廃棄物として処理できる。5月までに試作モデルを完成させ、9月にも販売に乗り出す計画。燃烧装置により、建築物の解体現場でケイ素の塊をガラス化して廃棄処理できるようになる。

(倉科信三)



同社は、アスベスト除去剤「JP-010」を開発し、昨年8月に発売した。遠隔操作で建物の解体現場のアスベストに除去剤を噴射し、無害化されたケイ素

JPカンファレンスが開発中のガス燃烧装置

## 輸送コスト大幅削減

の塊にする。これまでの販売実績は4件だが、問い合わせが約40件あり反響は大きい。羽根田社長は「2月に実施した実証実験以降、注目が高まっている」という。ただ、同除去剤で実質的に無害化されても、ケイ素の塊は特別管理指定されており、最終処分場に輸送しなければならぬ。このため、関東の工事現場から、関西や四国の最終処分場に運ばれているのが現状となっている。

そこで、同社は専用のガ



羽根田晃社長

ス燃烧装置により、2千〜2400度でケイ素の塊を溶融してガラス化することを発案。ガラスは産業廃棄物として処理できる。ガス燃烧装置を活用すれば、アスベスト除去剤を使用する業者は、ケイ素の塊の廃棄処理に必要な輸送コストを大幅に削減できる。また、廃棄処理の課題が解決し、除去剤の一層の拡販にもつながる。同社では、ガス燃烧装置をトラックの荷台に乗せら

れるようにする方針で、建築物の解体現場などで使いやすくする考え。



情報は名古屋デスクへ

TEL 052(561)5212  
FAX 052(561)5207

購読のお申し込み

☎ 0120・605・123  
10時〜18時(日・祝日除く)

WEBでのお申し込み

中部経済

検索

名古屋のお部屋